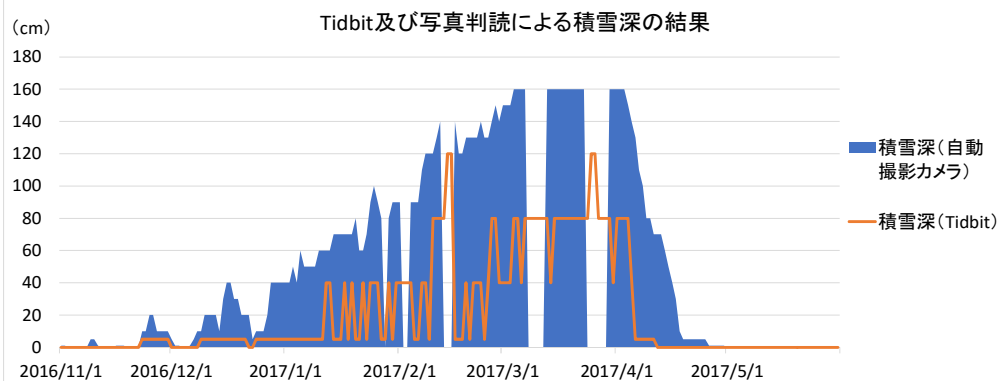


ID <sup>注1)</sup>	171208	公開レベル <sup>注1)</sup>	C	保管形式 <sup>注1)</sup>		保管場所 <sup>注1)</sup>		前回ID	161203
-------------------	--------	----------------------	---	---------------------	--	---------------------	--	------	--------

報告書名称 /調査名称	世界自然遺産の森林生態系における気候変動の影響への適応策の検討事業のうち現地調査等						発行年月/報告年月	
							2018年	3月
調査機関	林野庁			委託機関			(一社)日本森林技術協会・(株)ブレイク研究所(2014まで)	
調査開始年	2010年		調査期間	2010年	10月	~	2018年	3月
調査頻度 <sup>注2)</sup>	— — —			調査時期 <sup>注2)</sup>		通年 — —		
モニタリング計画	2012年3月 策定		区分 <sup>注2)</sup>	I	大区分 <sup>注2)</sup>	1	小区分 <sup>注2)</sup>	(1)

調査箇所・範囲 <sup>注3)</sup>	調査手法
<input type="checkbox"/> 核心地域 <input checked="" type="checkbox"/> 緩衝地域 <input checked="" type="checkbox"/> 周辺地域 <input checked="" type="checkbox"/> GPS等の位置データあり 	<p>世界自然遺産における影響を把握するため、世界自然遺産地域の森林生態系における気候変動の影響のモニタリングプログラムの開発等を目的に、白神山地では次の調査を実施。</p> <p>平成22年度：植生調査、毎木調査          平成23年度：気象観測、毎木調査、ハイマツ調査          平成24年度：気象観測          平成25年度：気象観測、小岳定点カメラ調査、植生調査（垂直分布）          平成26年度：気象観測、小岳・崩山定点カメラ調査          平成27年度：気象観測、小岳・崩山定点カメラ調査          平成28年度：小岳・崩山定点カメラ調査、崩山温度測定器（以下Tidbitという。）による積雪調査          平成29年度：崩山定点カメラ・Tidbitによる積雪調査、小岳・白神岳植生分布確認調査</p> 

結果概要（スペースに収まるように入力してください）



崩山では2014年10月16日から定点カメラ(自動撮影カメラ)を設置し、定期的な写真記録(1回/1時間)を行うことにより、積雪状況及び根雪期間をモニタリングした。さらに、2016年8月26日に定点カメラの画角内にある樹木にTidbitを設置した。また小岳および白神岳山頂付近の航空写真判読と現地確認を行い、植生分布状況を確認した。

問い合わせ	<p>林野庁 東北森林管理局 計画保全部計画課          〒010-8550 秋田県秋田市中通五丁目9番16号          TEL : 018-836-2489 FAX : 018-836-2203</p> <p>《原本(データ)の帰属について》</p>
-------	--

注1) 「ID」「公開レベル」「保管形式」「保管場所」については記入しないこと。  
 注2) ドロップダウンリストから該当する項目を選択すること。  
 注3) 該当する項目の口をクリックし、チェックを入れる。

備考

【崩山 定点カメラによる積雪状況調査】



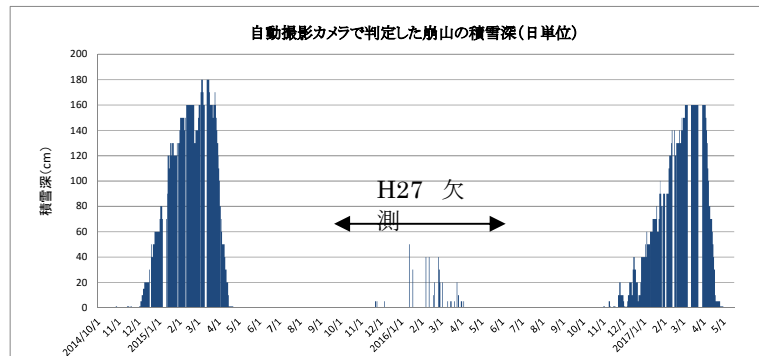
定点カメラの設置状況



基準となる写真



例：平成29年1月27日の積雪状況  
(積雪深約80cm)



※平成27年度シーズンの欠測は、自動撮影カメラの作動不良

【崩山 Tidbitによる積雪状況調査】※H28に新規設置、データはH29回収



定点カメラとTidbitの設置状況

Tidbitの仕様

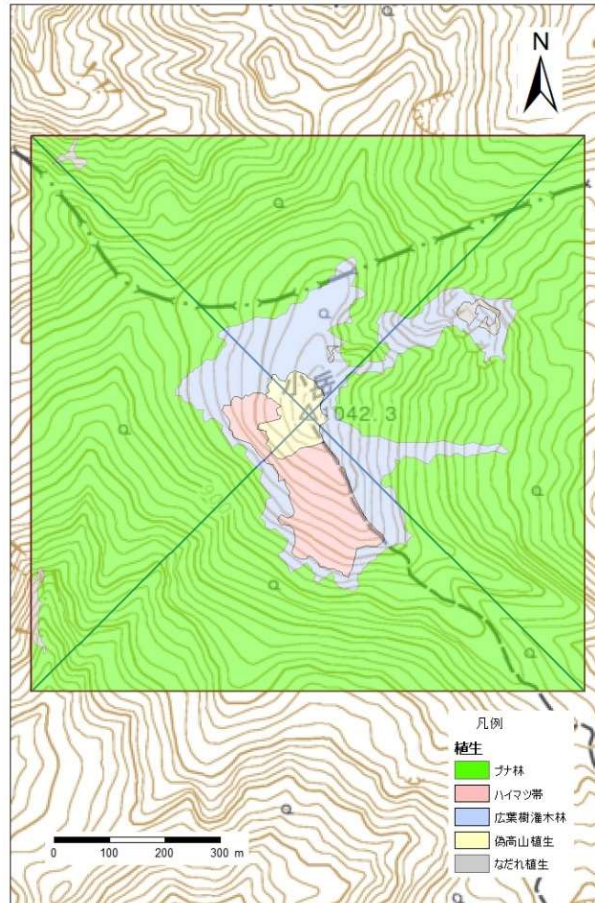
計測範囲	-20～70℃(空気中)、-20～30℃(水中)
精度	±0.2℃(0～50℃)
質量	23g
寸法	30mm×40mm×17mm
ハウジング	エポキシ樹脂



・自動撮影カメラの画角内にある樹木にTidbitを地表から40cmごとに取り付け、温度変化をみることで雪に埋もれた期間を判定し、自動撮影カメラで観測した積雪深と比較した。雪に埋もれると温度が一定になるため、自動撮影カメラで積雪深を測定できない箇所では、Tidbitによる積雪深の測定も有用であると考えられる。また、自動撮影カメラで観測した積雪深よりも、Tidbitで判定した積雪深の方が全体的に低い傾向にあった。

備考

【小岳 航空写真(2015年)判読及び現地確認(2017年)による山頂付近の植生分布】



【白神岳 航空写真(2016年)判読及び現地確認(2017年)による山頂付近の植生分布】

